

第 7 次斜里町総合計画の進行管理（令和 7 年度行政評価）について

1. 進行管理の根拠

第 7 次斜里町総合計画では、計画の実効性を確保するため、PDCA サイクルに基づいた進行管理を行うことを定めています。

（第 7 次斜里町総合計画より抜粋）

基本施策それぞれについて、現状と課題を明らかにした上で目的を定め、具体的な取組みと、その目標がどれだけ達成されたかを把握するための数値目標を設定し、まちの現状を目指す姿にどれだけ近づいているか評価しながら、その結果を活かしていくという PDCA サイクルによりまちづくりを進めていきます。

また適切に進行管理を進めるため、行政内部に「総合計画進行管理委員会」を設置し、基本施策それぞれについて行政評価を行うとともに、財政収支との整合をとるために、5 年間を単位とした「実施計画書」を作成し、中期的な財政見通しを持ちながら計画の推進をはかります。

2. 進行管理の目的

- （1）計画の実現度の客観的な把握
- （2）施策推進における問題点や課題の明確化
- （3）明らかになった課題への改善策を、今後の施策展開に活かすこと
- （4）計画の進捗状況を公表し、町民への説明責任を果たすこと

3. 評価方法

総合計画に位置付けられている基本施策（全 67 施策）を評価対象とし、令和 7 年度における各基本施策の実施状況や成果、課題等をもとに、行政内部の進行管理委員会が評価を実施しています。評価にあたっては、あらかじめ評価基準を設定し、「指標面」「実績面」の 2 つの軸で行い、これらの結果を踏まえ、最終的に委員会としての総括評価を行いました。

＜開催経過＞ 第 1 回進行管理委員会 令和 8 年 9 月 26 日（月） 町長、副町長、教育長、各部長職、総務課長、政策推進課長、事務局
第 2 回進行管理委員会 令和 8 年 10 月 6 日（火） 町長、副町長、教育長、各部長職、総務課長、政策推進課長、事務局

<評価基準>

評価	指標面	実績面
	施策の成果を客観的に示すKPIが、目標に対してどうであったかを評価	KPIの数値だけでは測れない、実際に行った取組（事業）の内容やプロセス、成果の質を評価
A (良好)	・更新された数値が目標を達成し、かつ最終目標に向けた進捗が計画を上回っている。 ・KPIに影響を与える取組が計画以上に進捗しており、次回の指標更新時に目標達成が見込まれる。	・計画以上の有効な取組が実施され、期待を上回る、または計画どおりの成果が出ている。 ・効果的な連携が、成果を大きく向上させる要因となっている。
B (順調)	・更新された数値が目標を達成しており、最終目標に向けた進捗は計画どおりである。 ・KPIに影響を与える取組が計画どおり着実に実施されている。	・おおむね計画どおりに取組が実施され、期待された成果が出ている。 ・必要な連携を図りながら、円滑に事業が進められている。
C (要改善)	・更新された数値が目標に届かず、最終目標に向けた進捗に遅れが生じている。 ・KPIに影響を与える取組が遅延・停滞しており、次回の目標達成に懸念がある。	・課題が多く、期待された成果が十分に出ていない。 ・連携不足が、非効率や成果不振の一因となっている。改善の余地が大きい。

5. 評価結果 <詳細は資料1-2参照>

第7次斜里町総合計画の2年目として、救急体制の高度化や図書館活動の推進、道の駅の販売力強化、ふるさと納税をはじめとする自主財源の確保などの施策で具体的な成果が上がっています。その一方で、人口減少等による公共サービスにおける専門人材・担い手の不足、地域コミュニティにおける課題は依然としてあり、住まい施策や地域防災計画の見直しなど防災減災に向けた環境整備においては進捗の遅れがみられました。また、国保病院や上下水道事業の収支悪化など町民生活の安心、財政健全性に直結する分野での対応が引き続き求められています。

評価結果を踏まえ、それぞれの課題の解決に向けた施策展開と次年度予算編成作業への連動を図ることで、第7次斜里町総合計画が目指す基本テーマ「みんなで一緒にとりくむ、持続可能なまちづくり」の実現に向けて取り組んでまいります。

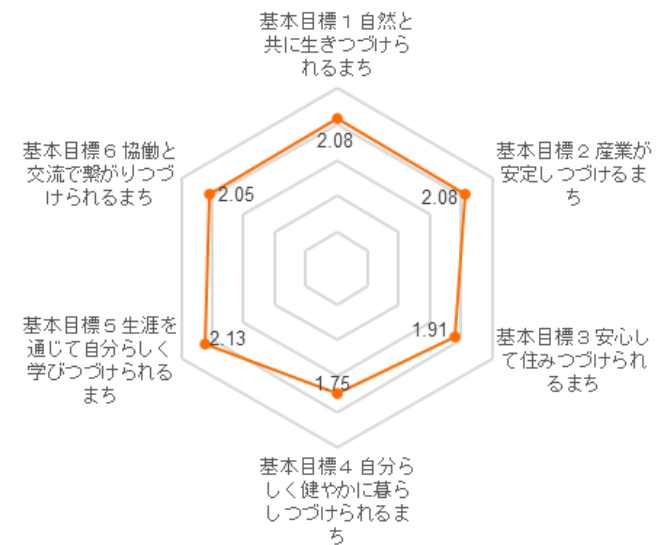


図 令和7年度評価結果（平均スコア）のレーダーチャート